



学びを広げる
GIGAスクール構想

吉野中学校3年生一人ひとりに手渡されたノートパソコン。使用方法についての授業の様子。(10月6日)



学びを広げる

GIGAスクール構想

Global and Innovation Gateway for All

GIGAスクール構想実現のために必要なものは、ハード（ICT環境整備）、ソフト（デジタルならではの学びの充実）、日常的にICTを活用できる指導体制です。吉野町の子どもたちの、大きな可能性を広げるための取り組みを紹介します。



“小中学校”1人1台端末

今年度からスタートした小学校の学習指導要領にはICT活用の学習活動充実がうたわれています。このための一つの手段が「GIGAスクール構想」です。この構想の主軸となるのは、児童生徒に1人1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークです。これらを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる「ICT教育環境」を実現します。

コロナ禍で急務となった

ICT教育環境の整備

いまだに収束への道筋が見えない新型コロナウイルス感染症。学校休業により教育のICT化の必要性を多くの人が痛感しました。児童生徒の学びを止めないために、文部科学省は今年6月「1人1台端末のスケジュールを前倒しで進めるべき」との方向性を示しました。吉野町では8月に奈良県域GIGAスクール構想推進協議会でノートパソコンを調達し、町内のすべての小中学校に配備しました。またWi-Fi環境のないところでも使えるように、必要な機器の整備も進めています。

ICTの活用により充実する学習の例

- ✓ **調べ学習**…課題や目的に応じて、インターネットを利用し、様々な情報を収集・整理・分析
- ✓ **表現・制作**…写真等を用いた多様な資料・作品の制作、プレゼンテーション学習等の実施
- ✓ **遠隔教育**…大学・専門家との連携、過疎地の子どもたちが多様な考えに触れる機会、入院中などの登校できない子どもと教室をつないだ学び

授業での活用例

例年、町内小学校の修学旅行は、平和学習を目的に広島県を訪れていましたが、新型コロナ対策の一環として、長時間の公共交通利用をさけるため、行き先を和歌山県へ変更。平和学習の機会を確保するため、広島原爆被爆者の語り部とオンラインによる特別授業を実施予定。

インタビュー 心と心のつながりはそのままに

ー新型コロナで学校の臨時休業が長期化しましたね。

「長期化したことで、最も心配されたことは、学校と子どもとの関係が弱くなってしまふことでした。教員が知恵を出し合い、寸劇の動画作成や、授業の動画撮影などに取り組みました。子どもたちは、学校の先生方の顔をホームページやDVD、CVYを通して見ることで安心感を得たようです。」

ーコロナ禍で学校現場のICT環境整備が前倒しとなりましたが。

「今回、多額の費用をもって1人1台のノートパソコンと通信ネットワークを前倒しで早期に整備いただいたことに感謝しています。これまでパソコンを使った学習は実施してきましたが、子どもたちは自分専用の端末が配付されることを

とても楽しみにしていました。」

ーICT教育環境が整い、学習活動充実が期待される中で今後の取組は？

「これからの時代には情報活用能力が言語能力と同様に学習の基盤となると考えています。まずは、教員の研修を行い、ICTを活用した新たな授業の在り方を研究し、できることから実践しています。生徒のパソコン操作の習熟度には個人差があるので、お互いに教え合うペア学習を併用して、特別活動や各教科の調べ学習にパソコンを活用しはじめています。今回のコロナによる長期の休業を乗り越えられたのは、子どもたちと学校のつながりを途切れさせなかったことが良かったと考えています。また逆に子どもは学校(教員)とのつながりを求めているということも再認識できました。やはり心と心の通い合いが、教育には大事だということです。ICTの活用がコロナ禍での課題の全てを解決するとは考えず、これまでの教育の蓄積と新たなICT教育の活用、双方を掛け合わせた相乗効果で学校教育の充実を更に目指していきたいと考えています。」



吉野中学校 紙岡秀樹校長

メッセージ

GIGAスクール構想は、変化の激しい時代を生き抜く力を育むひとつの手段

GIGAスクール構想は、技術革新によって社会が目まぐるしく変化を遂げるなかで、5年先、10年先の社会を見通せない社会にあっても、ICTを活用して、予測できない社会の変化を前向きにとらえ、主体的に関わり、幸福な人生を送りながら、より良い社会の担い手となる子どもを育む教育の環境整備を目的としています。具体的には、ICTを基盤とした先端技術の活用を手段として「子どもの力を最大限に引き出す学び」の実現に向けて、時間・距離の制約なく良質な学びを提供し、個別に最適化された効果的な学びや支援する環境整備を通して、子どものみならず、教員の力も最大限に引き出すことにも期待されるものです。

本町も早期に予算化していただいたお陰で、8月末には児童生徒1人1台のノートパソコンの配備が実現し、本町ICT教育環境の基盤が整いました。このことにより遠隔教育のみならず、端末を活用しての新たな授業の展開が可能となりました。例えば、一斉学習では、従来の黒板の使用に加えて、画像の拡大表示や音声・動画などの活用が、個別学習

では、子どもたち個別の学習習熟度データの取集を通して、その習熟度に応じたデジタル教材を用いた理解を深める学習が、協働学習では、グループでの発表や話し合いの場面で個々の意見をみんなで共有することや複数意見の整理をおこなうなど、いずれも子どもたちの学びの新たなひろがりにつながるものです。今後は、ICT教育充実の取組の中で、貨幣経済の変化に見られるように、現実と仮想の空間が融合する現代社会の中で生きる子どもたちが、積極的に正しく関わっていくための情報活用能力を同時に育んでいくことを目指したいと考えています。



森本弥寿則教育長